稲の病気とその害虫

５年１組今井麻唯

いもち病気

米には、いろいろな病気があります。今から、稲の病気などを紹介します。
稲の病気では、最初に、一番恐いといわれている「いもち病」のことについて紹介します。
いもち病は、「カビ」が原因で起こります。このカビの胞子が稲の葉につくと、葉に黄色や茶色の点々ができます。この点々がたくさんできてくると、葉が枯れてきます。これが、「葉いもち」という病気です。

いもち病気

ひどいときには、ほとんどの葉が枯れてしまい稲が死んでしまいます。葉いもちにかかってしまうと、いなほがくきから顔を出す時に、葉にいる病気を起こすカビがいなほのほうに移っていき、いなほやもみが病気になって枯れてしまい、お米が実りません。[穂いもち]といい、これでは、収穫量減ったり、お米がきれいでなくなったりします。

稲の病気

次に、いもち病以外の病気を紹介します。
ごま葉枯病「肥料の枯れた他に発生しやすく、葉にゴマ粒のような病はんがでて枯れる病気です。紋枯れ病、萎縮病などの病気があります。
これで、稲の病気の紹介を終わります。

害虫

次に、稲につく害虫について紹介します。
ニカメイチュウ、「葉や茎を食べて、稲を黄色くさせる」ウンカ類、イネアオムシ、イナゴ類、カメムシ類、コブノメイカ、ヨコバイ類、イネドロムシなどの害虫が、稲に影響をあたえています。

まとめ（感想）

このように，稲の病気やその害虫などが、稲を食いあらしたりして、農家の人々を苦しめているのです。しかし、農家の人々は、よりおいしく、より安全なお米を作るために、田んぼを、稲の病気や、その害虫などから守っているのです。
私は、「稲の病気とその害虫」を調べて、農家の人々は、稲の病気などに、とても苦労しているとは、思いませんでした。